

平和の絆で結ばれて、御霊による一致を熱心に保ちなさい。（エペソ4章3節）

多様性と相違を乗り越えて、協力と一致を目指して

「新型コロナウイルス感染対策窓口」が発足して1年が経過しました。この1年、未知のウイルスにどのように対応すればよいのか？日本の社会全体が試行錯誤と混乱の中でありました。「対策窓口」ではJECA加盟教会の現状や様子を分かち合いつつ、教会にとって必要と思われる情報を可能な限りお伝えしてきました。「有用な情報を発信していただいた」という評価の声も多数お聞きしましたが、他方、JECAとしての統一見解ではない何らかの指針を発表すること、多様な意見を反映することの難しさも実感してきました。

1年に及ぶ「窓口」の働きを通して、新型コロナウイルスへの対応が、各地区、区域によって大きく異なっていること、また同じ区域にあっても、教会の構成員、規模、立地条件によって対応に大きな違いが出てくることにも気付かされました。コロナ禍は、改めて、JECAにつながる教会、地区の多様性、相違に気付かせる機会となりました。

各教会、各地区でコロナ禍への対応の違いがあることは問題ではありませんが、私たちは、改めて、JECAとしてどのように一致を保っていくか、という課題に直面しているように思います。冒頭に掲げたエペソ4章3節は、「御霊による一致を熱心に保ちなさい」と勧められています。平和の絆、一致を与えるのは、神ご自身であるとしても、私たちには「一致を熱心に保つ」ことが求められていることを心に留めたいと思います。コロナ禍が2年目に入り、経済的な影響を受ける教会が出てくることも予想できます。また、交わりの不足、欠如からくる影響は、今後さらに影を落としてくるでしょう。今しばらくコロナ禍が続く中で、JECAとして、各地区、地域、教会の違いを認め合いつつ、平和の絆で結ばれて、共に、支え合っていけるように、祈って参りましょう

菅原豊（第15期全国運営委員 新型コロナウイルス感染対策窓口担当 白金キリスト教会）

1 第4波を受けて

昨年4月の全国的な第1波の一日新規感染者数のピークは700人程でした。8月の第2波のピークはその2倍の1,500人程。今年1月に襲った第3波のピークは、更にその5倍の8,000人近くでした。そして今、全国的な第4波のうねりが押し寄せています。そのピークは第3波を大きく上回るものと思われれます。

この波を押し上げている要因の一つは変異株です。ウイルスの感染が広がるに当たって、ウイルスが変異し、より感染力の強い株に置き換わっていくのは自然の理であり、避けられないことです。

一方、この波を鎮めるのは、感染経路を断つことと、ワクチンによる免疫です。まん延防止等重点措置と緊急事態宣言は前者を促すものです。これまで3つの波を乗り越えることが出来たのは、こうした努力の賜物です。今回も、もう一度ブレーキを踏まざるを得ません。この原稿を書いている

る時点で、東京都を始めとする6都府県に緊急事態宣言が発令され、更に8道県に「まん延等防止重点措置」が発令されています。

2 感染を抑える切り札は、ワクチン

ワクチン接種率50%を越えたイスラエルでは感染者が激減しています。アメリカやイギリスでも国民全体のワクチン接種が進み、かなりの程度日常生活が回復している様子が報道されています。

ただし、副反応の心配がないというわけではありません。日本国内のアナフィラキシーの発生頻度は、欧米での報告よりやや高いように思います。副反応の発生頻度には容量依存性（接種用量が多いほど副反応の発生頻度が高い傾向）があることが分かっていますので、もしかすると欧米よりも体格が小柄な日本人にとって、規定の接種用量は多すぎるのかもしれませんが。

私自身は、医療従事者枠でワクチン接種を受けました。私が従事している健診業務で新型コロナウイルス感染のリスクはほぼありませんので、優先接種枠の適用を受けるのは申し訳ない気持ちもありますが、せっかくの機会ですので、主の恵みと感謝して受けました。1回目は接種部位が痛くて腕が上がらないような状況が一両日続きました。5月10日に2回目を終えました。接種部位の痛みはありますが、今のところ発熱等はありません。講壇に立つ牧師として、これで感染の恐れがほぼ無くなったと言えることは、自分自身にとっても、教会にとっても大きな安心感に繋がります。

医療の第一線で活躍しているクリスチャンドクターから、ワクチンに関する所感とご自身が接種を受けた結果について実名で証を寄せていただきました(コラム1)。国内におけるワクチン接種が思うように進まないことはもどかしい限りですが、希望する人が一日も早く接種を受けることが出来ようお祈りしています。

3 教会としてどうするか

私が住んでいる北海道も感染の拡大が続き、「まん延等防止重点措置」が発令されました。第3波のピークは1日200人程でしたが、この原稿の最終チェックの段階で500人を越えました。正直、緊張感が高まっています。

しかし教会として為すべきことは、これまでと変わりません。しっかりとした感染防止対策を徹底しつつ、会堂での礼拝は継続します。リモートで参加している人たちの牧会にも十分に気を配り、教会が一つのからだとして歩み続けることができるように祈ります。

感染者が礼拝に集うようなことも、すでに起こっています。私が相談を受けたのはまだ1回だけですが、その教会でどのように対処したかについての証を寄せていただきました(コラム2)。この事例では、当事者のプライバシーへの配慮のために、教会名等は匿名とさせていただきました。

私たちの教会では新年度のテーマ聖句に基づいて、4月に入ってヘブル人への手紙11章からの講解説教をスタートしました。「信仰によって、ノアはまだ見ていない事柄について神から警告を受けたときに、恐れかしこんで家族の救いのために箱舟を造り、その信仰によって世を罪ありとし、信仰による義を受け継ぐ者となりました。」(ヘブル人への手紙11:7) 私は今回のコロナ禍を「神からの警告」として受け取っています。そのような時だからこそ、ウイルスや人の目を恐れるのではなく、主なる神を恐れかしこみ、共に集って主を礼拝し続けよう、それが信仰による義を受け継ぐことになるのだ、そのような励ましをいただきました。

吉田浩二（新型コロナウイルス感染対策窓口アドバイザー 厚別福音キリスト教会）

コラム1 ワクチン接種を受けた医療従事者から

■ウイルスについて

ウイルスがどのようなものかについての定義は難しいですが、『他の生物の細胞の中に入らないと生きていけないもの＝細胞の中で細胞の力を利用して増える』になるかと思います。このため、通常の細菌とは異なり抗生剤は全く効かない（肺炎を起こす細菌の肺炎球菌には抗生剤は効くが、ウイルス性肺炎には抗生剤は効かない）となります。

■ワクチンについて

ウイルスに対して抗生剤は全く効きませんし、ウイルスが引き起こすは病気に対しての特効薬はごく一部のウイルスにしかありません。コロナウイルスに対する特効薬は残念ながら現時点ではありません。このためウイルスに対してはワクチンが発症・重症化を予防するために重要となります。ワクチンは抵抗力をつける＝免疫をつけるためにはどうしたら良いかで作り出されたものです。これまでのものは、生きたウイルスや細菌の毒性を症状が出ないように極力抑えるもの・毒性を完全に無くして抵抗力を付けるようにしたもの・細菌が作る毒素に対して毒性を無くして免疫のみをつけるようにしたものの3種類です（それぞれの特性は割愛します）。

これに対して今回のワクチンの基本的考え方は神様が作られた人間の細胞の特性を利用しようとするもので、人の細胞は免疫をつけるためにそのレシピがあれば何でもいくらかでも作る能力があります。この性質を使い、ウイルスに対する免疫に必要な部位のレシピのコピーをそのまま接種するワクチン（ファイザー社やモデルナ社など）、別のウイルスに免疫に必要な部位のレシピを細胞に運ばせるワクチン（アストラゼネカ社など）です。

効果は70~95%と高く、特に発症及び重症化の予防効果が高いとされています。症状のない感染（ウイルス保有者）の予防効果は今のところ不十分で、何とも言えない状況です。変異株に対する効果は、変異の種類で変わりそうですが、恐らく効果ゼロではなさそうです。また、ワクチンの成分自体は速やかに体内から消えます。

■ワクチンの副反応

昔からあるものや新しいタイプのものでも、ウイルス・細菌に対しての免疫を作る際、軽く感染した様な状態を作るため何らかの反応が出やすいです。コロナワクチンでよくある副反応は、接種部位の痛み・腫れ、頭痛、倦怠感、発熱などで、1週間以内に

自然軽快し、後遺症はないとされています。激しい副作用のアナフィラキシーは接種後15分以内と言われ、頻度は報告で変わりますが、100万人に10~20人程度と言われています。これは他のワクチン（100万人に1.3人程度）より多いですが頻用薬（痛み止め百万人に千人程度など）よりは低いです。

■ワクチン接種を受けて

実際にワクチンを自分自身も接種しました。1回目は午後2時ごろに接種し、その日の深夜0時ごろより接種部位の疼痛が出現し寝返りの度に目が覚めましたが、翌日の昼頃には消えました。その後、2日目から2日間ほど体の怠さを感じましたが仕事等には影響はありませんでした。2回目の接種を3週間後に受けました。同様に接種部位の痛みと体の怠さはありました。痛みと怠さも前回よりは長引きましたが5日目くらいにはなくなりました。発熱はなかったのですが同僚は何人が発熱しましたがほぼ大部分が接種後12時間程度で発熱し1日以内には解熱しています。勤務先では約1600人程度接種していますが、激しい副作用のアナフィラキシーはありませんでした。数名がいわゆる蕁麻疹が出ていますが全員が今までに何らかのアレルギーのある方でした。尚、印象ですが傾向としては若い女性の方が発熱等の副反応を生じやすく、新型コロナに感染しないしPCR検査で陽性になった方は発熱や倦怠感などが激しいようです（他の施設の方も同意見です）。

■最後に

ワクチンの副反応に対して日本人は日本人以外の方々に比べて正常な人に投与して副反応が出るのがおかしい～所謂ゼロリスクを求める傾向があるように思いますが、社会を守るため、あるいは個人を守るためにはどうしたら良いかは自分と神様の関係で決めていただく必要があると思います。

皆様に考えていただきたいことは、このウイルスよりも人です。感染した人やクラスターが生じた場合にその方々への誹謗中傷です。「それだけではなく、苦難さえも喜んでいきます。それは、苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。」（ローマ5:3-4）そのような事がない世の中になるように祈りつつ、神様との関係を保ちながら生活をしていきたいものです。

宮崎県立病院 救急・総合診療科 雨田立憲
(宮崎北聖書キリスト教会員)

コラム2 礼拝に感染者が来ていたことが分かった時のA教会の対応

■教会員の感染

教会の役員会で感染対策に苦労している矢先のある木曜日、「〇〇さんが陽性でした。日曜日の彼の動きを確認する必要があります」という緊急メールがある方から届きました。私も動揺しつつ、祈りつつ、すぐに本人に確認のために電話をしたところ、陽性確定ではなく濃厚接触者確定とのことでした。

すでにその時点で情報が混乱していました。

■対応の相談

すぐに吉田浩二先生を思い出して教会の対応を相談したところ、以下のアドバイスを頂きました。

①教会員が濃厚接触者だとわかった場合、牧師は本人の了解を得て教会の皆さんに状況を丁寧に開示する。余計な噂や偏見を防ぐため。

②その人と濃厚接触した人は程度によって保健所の相談窓口連絡をする。検査を受けるかは個別に判断する。

③その人が日曜に使用した場所や触った場所は日曜から木曜の時間が空いていれば徹底した消毒は必要がなく、通常の消毒で十分。会堂全体の消毒や礼拝中止などパニックになる必要はない。

④本人には14日間は礼拝出席を控えていただく。

■教会員全員への連絡と祈り

吉田先生からのアドバイスを受けて、その日（木曜日）のうちにもう一度本人と連絡を取り、経緯をまとめて、教会員全員に連絡網と一斉メールでお知らせしました。教会員への内容は以下のようなものでした。

「〇〇さんの状況について本人の了解を得て報告します。この連絡が余計な偏見や不安を煽るものでなく、祈りになるように願います。噂や関係者以外の拡散はご遠慮ください。現在〇〇さんは感染の可能性が高い濃厚接触者です。倦怠感と微熱がありPCR検査を待っている状況です。感染経路を伺ったところ、先日の日曜の時点では感染者との接触はなく、月曜以降に感染した可能性が大きいです。経緯は以下の通りです。（…中略…）〇〇さんは不安と

体調の悪さの中にいます。特別にお祈りしましょう。」

実際の一斉メールと連絡網はもっと詳しく本人の職場の状況を具体的に、どのように感染者と接触したかを時系列で書きました。さらに先述の吉田浩二先生からの教会の対応4点のアドバイスを加え、さらに日曜日の本人の教会内での動きも時系列で記載してお知らせしました。なるべく丁寧に全員に連絡することで教会員の皆さんも落ち着いて祈り対応することができたと感じています。

数日後、彼も陽性であることが確定し、感染は日曜礼拝の次の日の月曜日、ということも分かりました。情報が更新するたびに教会の一斉メールと連絡網で丁寧にお知らせしました。教会の皆さんにとっては、情報が開示されていることや教会の対応が専門家である吉田先生の監修のもとにあることも安心材料になったようです。

■癒しと教会の成長

次の日曜礼拝の中で経緯をもう一度お伝えし、全員で孤独と苦しみの中にある彼のために祈りました。誰からともなく、励ましの手紙を書こう、食べ物やお見舞い品を届けようと声が上がリ、その日の夜には自宅療養をしていた彼のアパートの玄関前に教会の皆さんからの差し入れやメッセージカードが届いたそうです。その後、彼はホテルに隔離になり、次第に癒されて行きました。

彼の感染は彼一人の苦しみではなく、教会全体の苦しみになり、また彼への愛や励ましを現す機会とされたと感じています。数週間後に癒されて彼が教会の玄関に現れた時には、思わず拍手が起こり、みんな彼を歓迎し神様に感謝する機会とされました。

感染者が出たことさえも神様は用いてくださり、教会を成長させ、愛を現してくださったと感じています。主に感謝致します。